

ナマズ生産結果

根本守仁

1. 目的

真珠母貝の種苗生産においては、グロキデウム幼生の宿主となる魚の確保が大きな課題である。宿主となる魚の種類は限定的であり、これまでヨシノボリやニジマスが用いられているが、近年ではナマズも有効であることがわかり、そのなかでも 100g サイズのものが扱いやすいことが明らかになりつつある。

そこで、真珠母貝の採苗技術の開発に必要な 100g サイズのナマズを 1,000 尾生産することを目標に実施した。

2. 方法

採卵は、6月11日に、人工採卵により行った。卵は、雌親魚に体重 1g あたり 10IU のゴナトロピンを腹腔内に注射し、水温を前歴より 5℃上昇させて排卵したものから搾取して得た。精液は雄親魚から摘出して乳鉢のなかですり潰すことで得た。

浮上から 50 日間の初期生産は、屋外のコンクリート池 2 面(面積 40 m²×水深 80cm、面積 15 m²×水深 40cm)で実施した。6月17日に、浮上仔魚を 40 m²の池には 5,000 尾(125 尾/m²)、15 m²の池には 1,500 尾(133 尾/m²)収容した。水は、開始時は施肥を行った水で止水としたが、約 20 日以降は地下水をごくわずか注水した。給餌については、ゼンマイ式の自動給餌機のみでの給餌とし、あゆ・ます類稚魚用およびアユ用配合飼料を成長に応じて給餌した。

浮上から約 50 日以降の飼育は、屋外のコンクリート池 2 面(面積 40 m²×水深 80cm)で実施した。成長に応じて、アユ用配合飼料、コイ用の EP 飼料およびコイ用のペレットを給餌とした。給餌量は 1 日あたり魚体重の 4% で開始し徐々に増やしたが、1000g を最大と

した。

3. 結果

採卵について、ゴナトロピンを接種した 10 個体のうち 8 個体で接種から 10 時間後に排卵が確認でき、生産に用いた。得られた卵に対して正常な仔魚が得られた割合は 19.9% と例年と比較して低かった。

初期生産結果を表 1 に示した。生残率は 40 m²の池で 18.8%、15 m²の池で 25.5%であった。生残が低かった原因としては、40 m²の池ではハイイロゲンゴロウが大量に侵入したことでナマズが捕食されたことや、手撒きによる給餌を行わなかったことが考えられた。

表 1 ナマズの初期生産結果

| No. | 池面積 (m ²) | 収容尾数 (尾) | 取上尾数 (尾) | 生残率 (%) | 平均体重 (g) |
|-----|-----------------------|----------|----------|---------|----------|
| 1 | 40 | 5,000 | 941 | 18.8 | 19.6 |
| 2 | 15 | 1,500 | 383 | 25.5 | 22.8 |

10 月下旬の取り上げ時の生産結果を表 2 に示した。両池ともに、生残率は 90% 以上であり、平均体重も 111g となり、順調に飼育することができた。また、全体量としても 1,246 尾であり、計画どおりの生産ができた。

表 2 10 月下旬時点でのナマズ生産結果

| No. | 収容尾数 (尾) | 取上尾数 (尾) | 生残率 (%) | 平均体重 (g) |
|-----|----------|----------|---------|----------|
| 1 | 663 | 639 | 96.4 | 111.2 |
| 2 | 658 | 607 | 92.2 | 111.7 |